

■(安藤)歌川広重 浮世絵師。司馬江漢が開発した名所絵の浮世絵版「東海道五十三次」「名所江戸百景」などの傑作。

うたがわひろしげ

昌平饗始・1797＝ 江戸八代洲河岸の定火消同心安藤徳右衛門の子に生まれる。

げんろ報復・1806＝9歳：

浮世風呂・1809＝12歳：両親を失い、家職を継いだ。生来絵が上手であったことから、

ゴロブシ拿捕 1811＝14歳：_歌川豊広に入門。

高田屋拿捕・1812＝15歳：_歌川広重と名のり、

・・・・・・1815＝18歳：

水野忠成老中1818＝21歳：_画壇へも登場、美人画や役者絵など意欲的に取り組むも、適性が無かったようで、

シボク来日・1823＝26歳：家督を嫡子に渡し、鉄蔵と改名、_画家として立つ決意を固め、絵本類や風景画をも手がけるうち、

シボク鳴滝塾1824＝27歳：

_葛飾北斎の影響を受けるも、独自の世界を模索、

シボク事件・1828＝31歳：

富嶽流行・1830＝33歳：号を一遊斎から一幽斎に変え、

富嶽三十六景1831＝34歳：_「東都名所」を描いて、本格的に、風景画家のスタートを切り、

鼠小僧磔・1832＝35歳：幕府の八朔御料馬献上の行列に随行して上洛、変化に富む東海道をつぶさに見ると、

天保大飢饉始1833＝36歳：帰府後、一立斎の落款をもつ*代表作「東海道五十三次」の続絵を発表。抒情的で親しみやすい画風が人気を集め、風景画家として、浮世絵界に確固とした位置を占めるに至り、

滑稽+人情本 1835＝38歳：_英泉との共同の傑作「洗馬」を含む「木曾街道六十九次」はじめ、

大塩平八郎乱1837＝40歳：

適塾ホヰン・1838＝41歳：*「江戸近郊名所」、この頃までの「近江八景」など、多くの名所絵・風景画を制作し、絶頂期となるが、

蛭社の獄・1839＝42歳：_妻を失ったためか、その後は、美人画や、洒落な戯画、絵本類も描き、

天保改革弾圧1842＝45歳：天保改革の頃は_一時歴史画が中心になるなど、多産ではあるが、乱作時代で時代になり、

阿部正弘首座1845＝48歳：_さらに、嗣子にも先立たれると、マンネリ化・類型化が目立ち、通俗的傾向が著しくなる。

・・・・・・1848＝51歳：「草筆画譜」刊。

国定忠治磔・1850＝53歳：「絵本江戸土産」(~1867)刊。

尊徳報徳論・1851＝54歳：*この年刊行された「東海道風景図会」で、自らの画風について、その独自性を主張し、

_その直後に制作された「六十余州名所図会」には、傑作が登場するようになり、

ペリー来航・1853＝56歳：

松下村塾・1856＝59歳：_江戸名所図絵の集大成となる「名所江戸百景」の制作に着手、

蕃書調所・1857＝60歳：「武陽金沢八勝夜景」等、成る。

五ヶ国条約・1858＝61歳：*118枚に及ぶ最大シリーズ「名所江戸百景」を発表したが、この年流行したコレラに罹って、没した。